



今週の T2 経済レポート

2020年12月25日、12月30日合併号

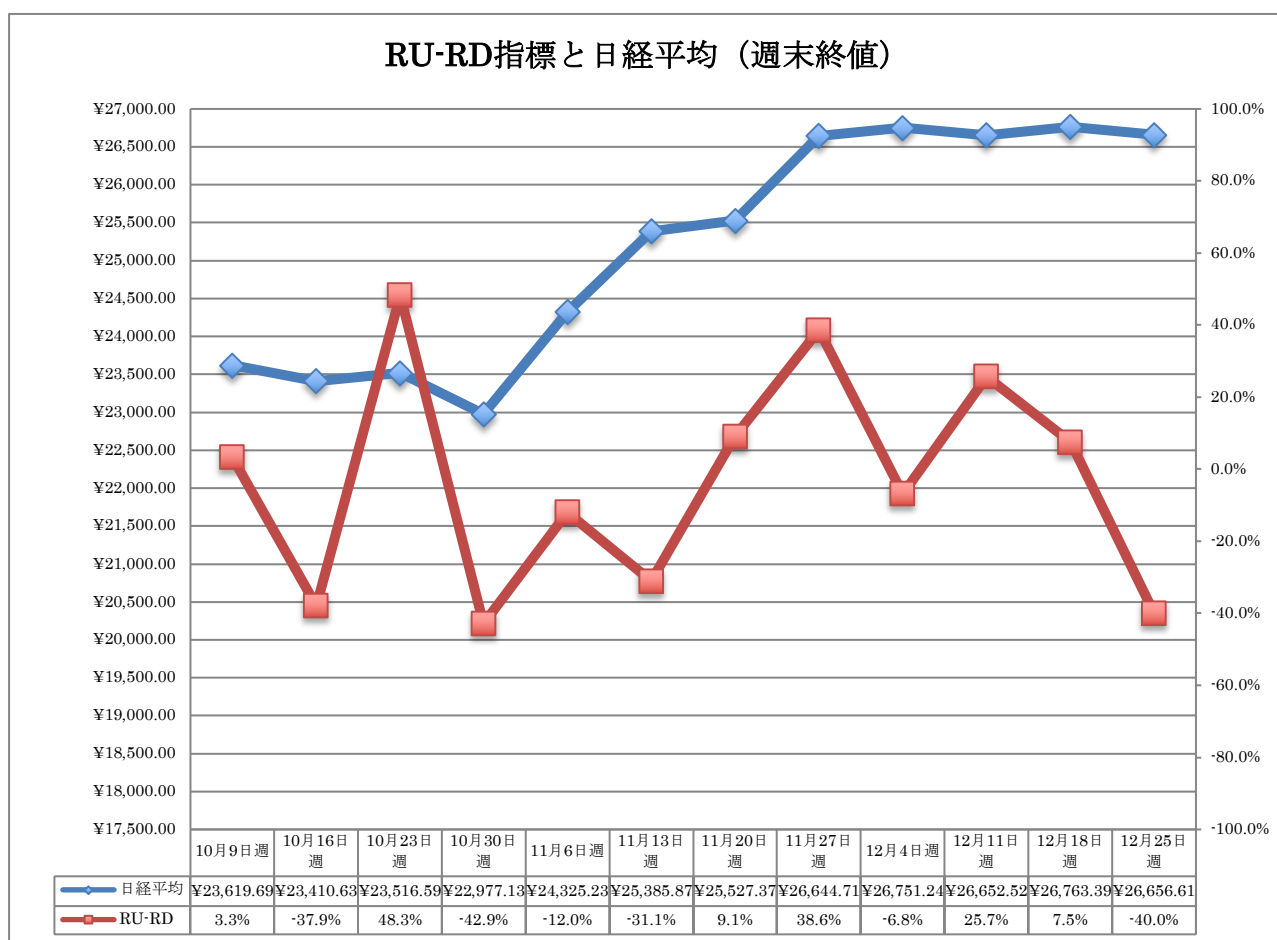
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は急落調整の可能性が高い週となりそうです。今週(12/21~12/25)の相場を占う『RU-RD 指標』の12月11日週は-40.0%と3週間振りにマイナス圏、かつ下限ゾーンまで一気に陥ったことで急落調整の可能性が出てきています。ただ、来週(12/28~1/1)の相場を占う12月18日週は+28.0%と逆に、プラス圏に浮上していることから急反発が期待されます。いつも指摘していますが、今回のようにプラス圏とマイナス圏が毎週、交互に繰り返すときは方向感がないため、今週、急落調整が起きないときは、来週の急反発も起きにくいと考えた方が良いかたちです。年末が近づいていますが、12月相場は急騰した11月とは異なり、高値圏でのボックス相場が続いていることを示しています。クリスマスまでは休憩モードですが、その後、外国人がどのようなポジション調整をするのかが注目されます。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング 1 と 2)」-「売り(レーティング 3 と 4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%→12月18日週+21.4%と19週連続プラス圏ですが、9月4日週、10月9日週の2度、一瞬ですが上限ゾーンを突破したものの上限ゾーンが継続するような状態とはならず足踏みが続いています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、一方では『大台替えと時間の物理学的法則』で中長期の方向感がなくなっていることから今回はどのようなかたちで目先、天井圏形成となるのかが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、24日に11月企業向けサービス価格指数、25日に11月失業率・有効求人倍率、11月商業動態統計、一方、海外は、22日に米7-9月期GDP確報値、米11月中古住宅販売件数、23日に米11月個人所得・個人支出、米11月新築住宅販売件数、米11月耐

久財受注、米 10 月 FHFA 住宅価格指数の発表が予定されています。22 日発表予定の米 7-9 月期国内総生産(GDP)確定値は、速報値と改定値の前期比年率+33.1%を維持できるかが注目され、下方修正された場合はドル売り要因となりそうです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は 23 日に 10 月 28・29 日の日銀金融政策決定会合議事録公表、このほか、21 日から 25 日にかけて 12 銘柄が東証に IPO 見込み、一方、海外は 21 日に米電気自動車メーカーのテスラが S&P500 種株価指数の構成銘柄に新規採用、米英は 24 日はクリスマス・イブのため短縮取引、25 日はクリスマスのため休場となります。」とコメントしました。



12月4日週	12月11日週	12月18日週	12月25日週
¥26,751.24	¥26,652.52	¥26,763.39	¥26,656.61
-6.8%	25.7%	7.5%	-40.0%

先週の日経平均は、高値 26905 円(12 月 21 日)・安値 26361 円(12 月 22 日)と推移、前の週と異なり、前半高・後半安の弱いかたち。先週は、週初、与野党が追加経済対策で大筋合意に達したことを好感して年初来高値を更新しましたが、英国で新型コロナウイルスの変異種が感染拡大した

ことで警戒感が一段と強まり、さらに年末特有の節税狙いの損出し売りや年末年始の空白期間を嫌った換金売りなどで下値目標値を達成、ただ米ファイザーによる新型コロナワクチンの追加供給や英国とEUがFTA(自由貿易協定)で最終合意したことなどが好感されて週間ベースで-107円安と前の週と異なり反落したものの小幅反落で終了しています(先週予告していた上値メド 26986円～27525円(+2%かい離)//下値メド 26459円～25929円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、11月25日に26500円大台替えで仕切り直しが入りました。27000円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、26000円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、11月15日までに26000円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。27000円大台替えで仕切り直し、逆に、24000円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、11月中に27000円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。28000円大台替えで仕切り直し、逆に、25000円大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期→、長期→となり、再び短期が強含みとなり目先上昇加速してますが、中長期は方向感がなくなり、上昇の勢いが無くなると乱高下しやすいかたちに変化しています。

日経平均を左右するNYダウは、高値30304ドル(12月21日)・安値29755ドル(12月21日)と推移、実質2週連続で前半安・後半高の強いかたち。先週は、英国と欧州連合(EU)が自由貿易協定(FTA)で12月24日までに合意に達する一方、欧米諸国などで新型コロナウイルス変異種の世界的まん延が不安視され下値目標値を達成、ただ9000億ドル規模の米経済対策はようやく与野党間の協議が決着し議会を通過し週間ベースでは+20ドル高と2週連続で反発したものの、投資家がクリスマス休暇なうえ、トランプ大統領が経済対策法案の部分修正を求め12月28日のつなぎ予算の期限切れ前に議会での修正が不透明なことから小幅反発で終了しています(先週予告していた上値メド 30529ドル～31139ドル(+2%かい離)//下値メド 29896ドル～29298ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、12月1日に30000ドル大台替えで仕切り直しが入りました。30500ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、29500ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、11月14日までに30000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。31000ドル大台替えで仕切り直し、逆に、28000ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、11月中に31000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯でしたが実現せず時間切れ。31000ドル大台替えで仕切り直し、逆に、28000ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期→、長期→、となり、中長期が方向感なく乱高下しやすいなかで、目先、上下しているかたちで、方向感が出るまでこのようなかたちが継続しそうです。

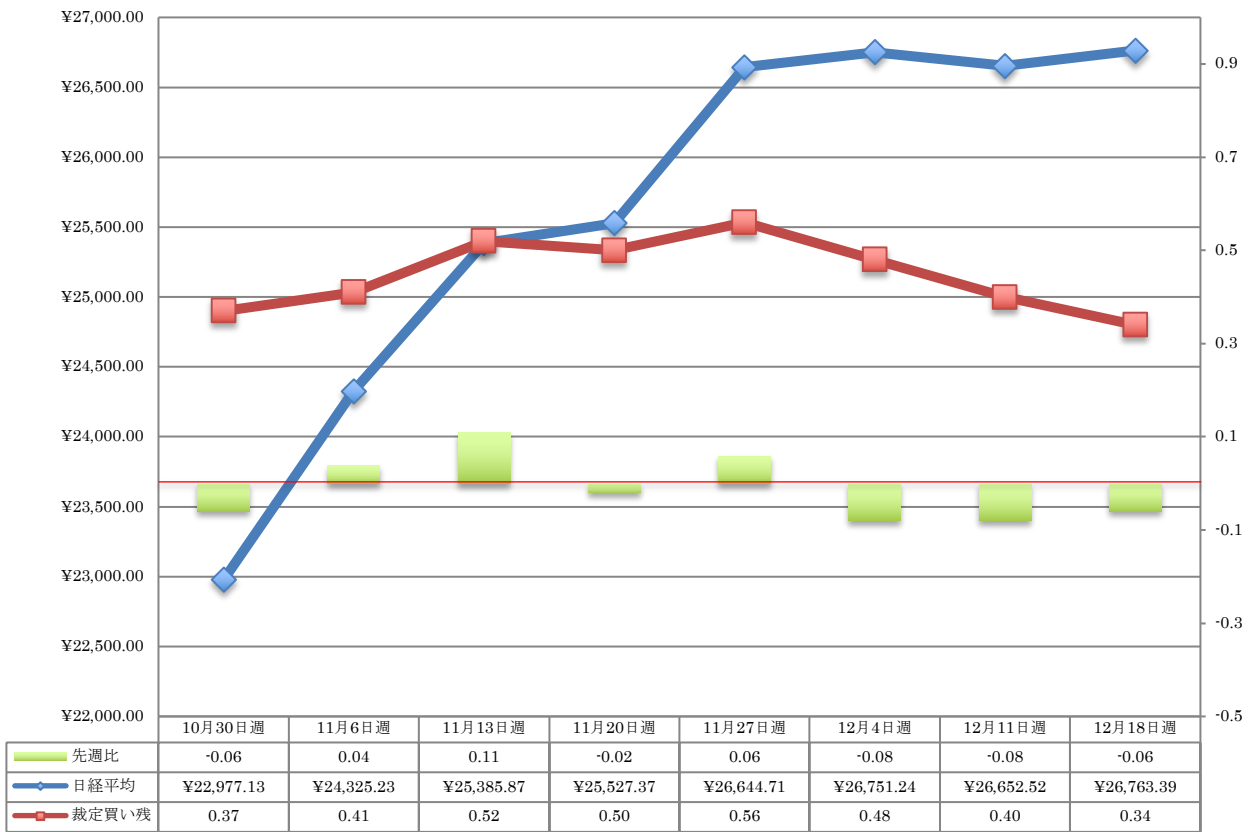
一方、為替は、ドル・円が103.88円～103.23円(先週予告していた上値メド 103.96円～104.99円(+1%かい離)//下値メド 103.04円～102.00円(-1%かい離))と推移、上値・下値両目標値を達成

しない小動きの週となりましたが、実質 5 週連続の円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.2256～1.2128(先週予告していた上値メド 1.2315～1.2438(+1%かい離)//下値メド 1.2131～1.2009(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し、実質 4 週間振りにドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、126.64 円～125.82 円(先週予告していた上値メド 127.61 円～128.88 円(+1%かい離)//下値メド 125.88 円～124.62 円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成して2週連続で円高・ユーロ安。前の週の円>ユーロ>ドルから円>ドル>ユーロ>ドルに変化していますが、円高は 2 週連続で継続しています。新型コロナウイルス変異種の欧州でのまん延で制限措置強化から経済への影響を懸念したユーロ売りが強まる一方、米国金利の金利先高観後退でドル買いが縮小したかたちです。

<裁定買い残・裁定売り残>

3 週連続で減少。3 月 23 日週に今年 1 月以来となる 7000 億円台に回復後、反動減がまだ続いている状況で、7 月 6 日週以来の 3 兆円台前半の低水準。一方、「裁定売り残」は、前の週比-293 億円の 1 兆 3859 億円と、2 週連続減少。先々週、1 週増加したもののここ 6 週間で 6521 億円減少しており、日経平均が 29 年振りに 26000 円大台を回復した牽引役の一つとなっています。過去の「裁定買い残」の推移を振り返ると、18 年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、18 年 5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 億円台を回復して 18 年 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18 年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来の急減で、やはり 18 年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

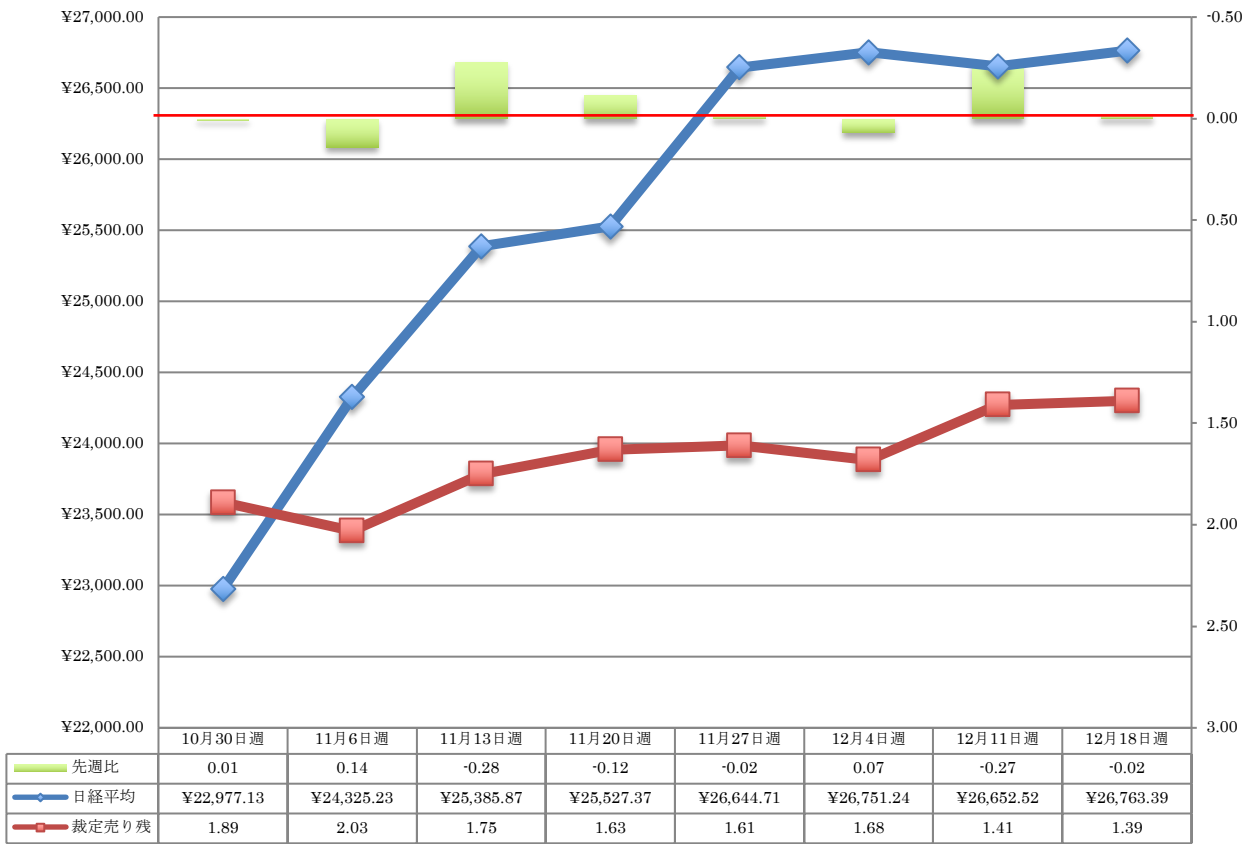
裁定買い残と先週比



11月27日週	12月4日週	12月11日週	12月18日週
¥26,644.71	¥26,751.24	¥26,652.52	¥26,763.39
0.56	0.48	0.4	0.34
0.06	-0.08	-0.08	-0.06

単位:兆円

裁定売り残と先週比



11月27日週	12月4日週	12月11日週	12月18日週
¥26,644.71	¥26,751.24	¥26,652.52	¥26,763.39
1.61	1.68	1.41	1.39
-0.02	0.07	-0.27	-0.02

単位:兆円

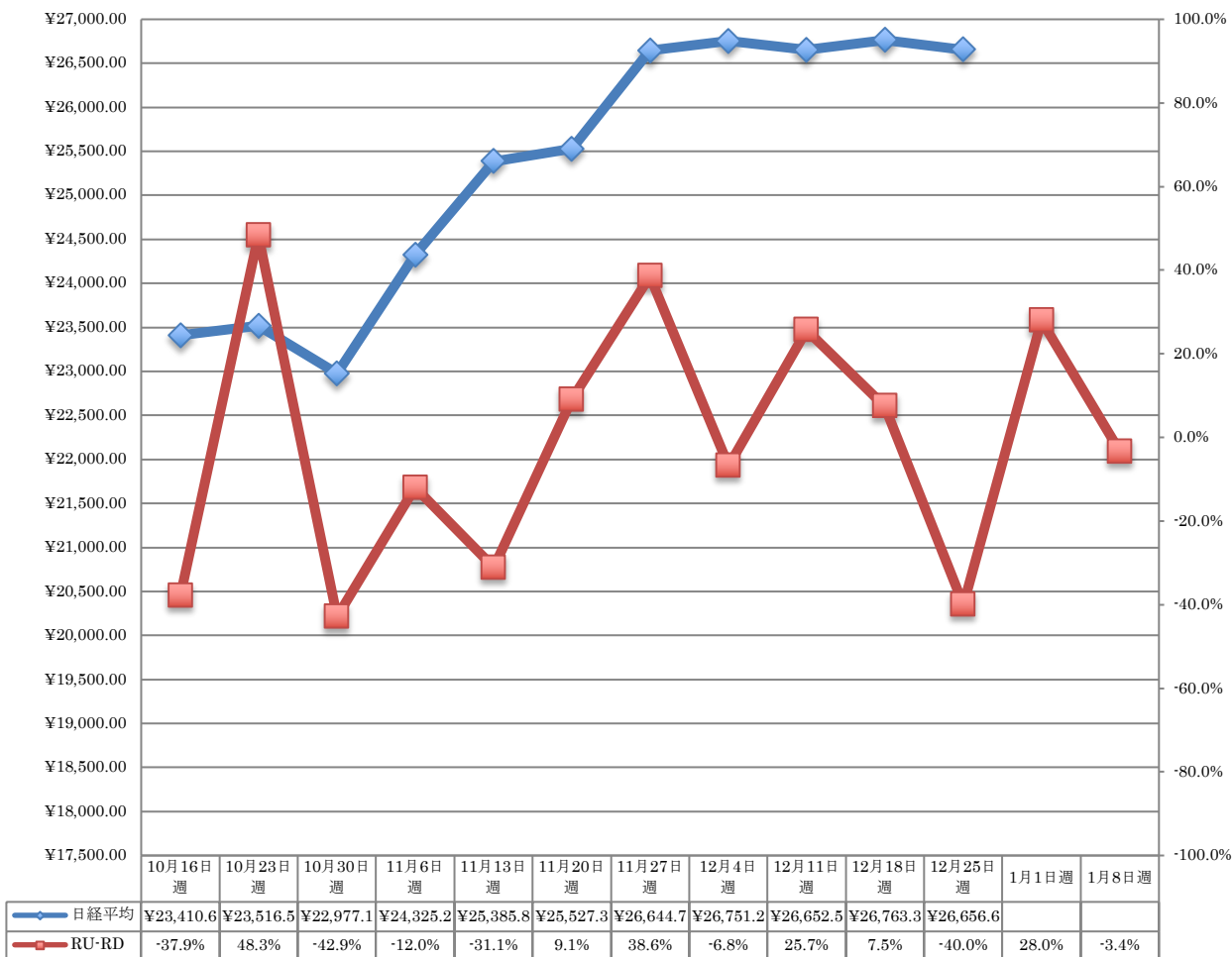
<今週のマーケットの見通し>

今週は本来は急反発が期待される週となりそうです。今週(12/28~1/1)の相場を占う『RU-RD 指標』の12月18日週は+28.0%と逆に、プラス圏に浮上していることから本来は急反発が期待されます。ただ、来週(1/4~1/8)の相場を占う12月25日週は-3.4%と逆に、マイナス圏に陥っていることから本来なら急落調整が懸念されます。いつも指摘していますが、このようにプラス圏とマイナス圏が毎週、交互に繰り返すときは方向感がないため、急反発も急落調整も起きにくいということになります。実は、12月に入り、プラス圏とマイナス圏が毎週、交互に繰り返す状況が4週間継続し、11月と大きく異なり、高値圏でのボックス相場が続いていることを示しています。先週はクリスマスまでは休憩モードでしたが、年末年始にどのようなポジションで1月相場を迎えるのかが注目されます。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%→12月18日週+21.4%→12月25日週+20.0%と20週連続プラス圏ですが、9月4日週、10月9日週の2度、一瞬ですが上限ゾーンを突破したものの上限ゾーンが継続するような状態とはならず足踏みが続いています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、一方では『大台替えと時間の物理学的法則』で中長期の方向感がなくなっていることから今回はどのようなかたちで目先、天井圏形成となるのかが注目されます。

今・来週は、経済指標では、国内は、28日に11月鉱工業生産速報値、7日に12月マネタリーベース、11月毎月勤労統計調査、8日に11月全世帯家計調査・消費支出、一方、海外では、29日に米10月S&PコアロジックCS住宅価格指数、30日に米12月シカゴ購買部協会景気指数、31日に米前週分新規失業保険申請件数、中国12月製造業PMI・非製造業PMI、4日に米・EU12月製造業購買担当者景気指数(PMI)改定値、5日に米12月ISM製造業景況指数、6日に米12月ADP雇用統計、米11月製造業新規受注、7日に米12月ISM非製造業景況指数、米11月貿易収支、米前週分新規失業保険申請件数、EU11月小売売上高、EU12月消費者物価指数、8日に米12月雇用統計が予定されています。1月5日発表の米12月ISM製造業景況指数は56.5と、11月の57.5を下回る見通し。また、1月8日発表の12月雇用統計は、失業率6.8%、非農業部門雇用者数は前月比+6.3万人と予想され、雇用回復ペースは鈍化する見通し。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は28日に12月17・18日開催の日銀金融政策決定会合「主な意見」、12月末の配当・優待権利付き最終売買日、30日に東証大納会、年が替わり1日に日英EPA発効予定、4日に東証大発会、一方、海外では、28日にボクシングデー(振替休日)で英・豪は休場、31

日に英国のEU 離脱移行期間が終了、年明け1日はニューイヤーで米国など主要市場休場、6日にFOMC(米連邦公開市場委員会)議事要旨、が予定されています。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



12月18日週	12月25日週	1月1日週	1月8日週
¥26,763.39	¥26,656.61		
7.50%	-40.00%	28.00%	-3.40%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 26908 円～27446 円 (+2%かい離)

下値メド 26488 円～25958 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 30291 ドル～30896 ドル (+2%かい離)

下値メド 29795 ドル～29199 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 103.72 円～104.75 円 (+1%かい離)

下値メド 102.70 円～101.67 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.2301～1.2424 (+1%かい離)

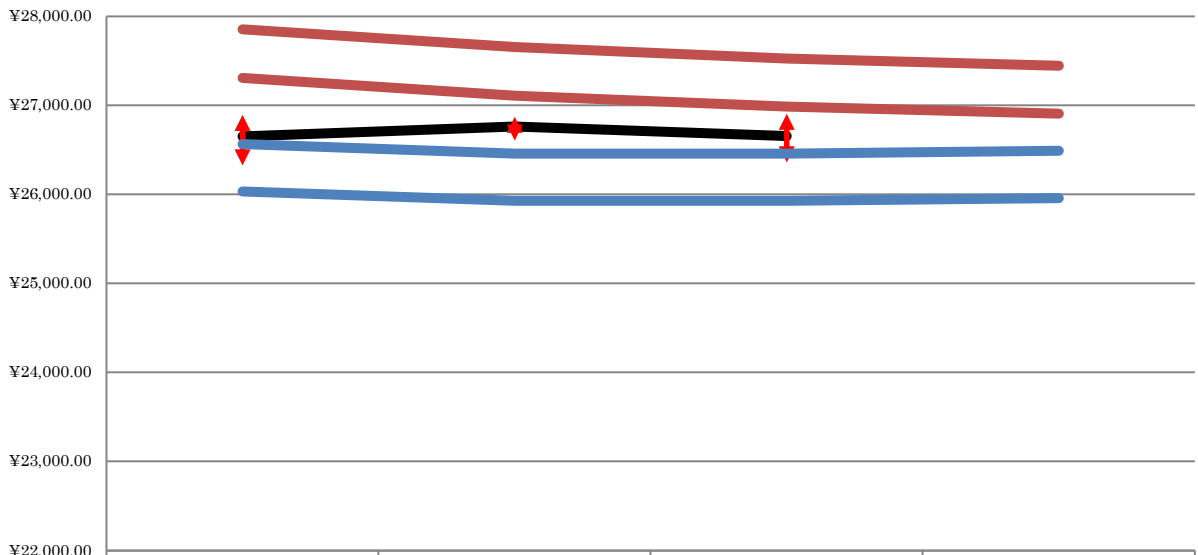
下値メド 1.2163～1.2041 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メド 126.86 円～128.12 円 (+1%かい離)

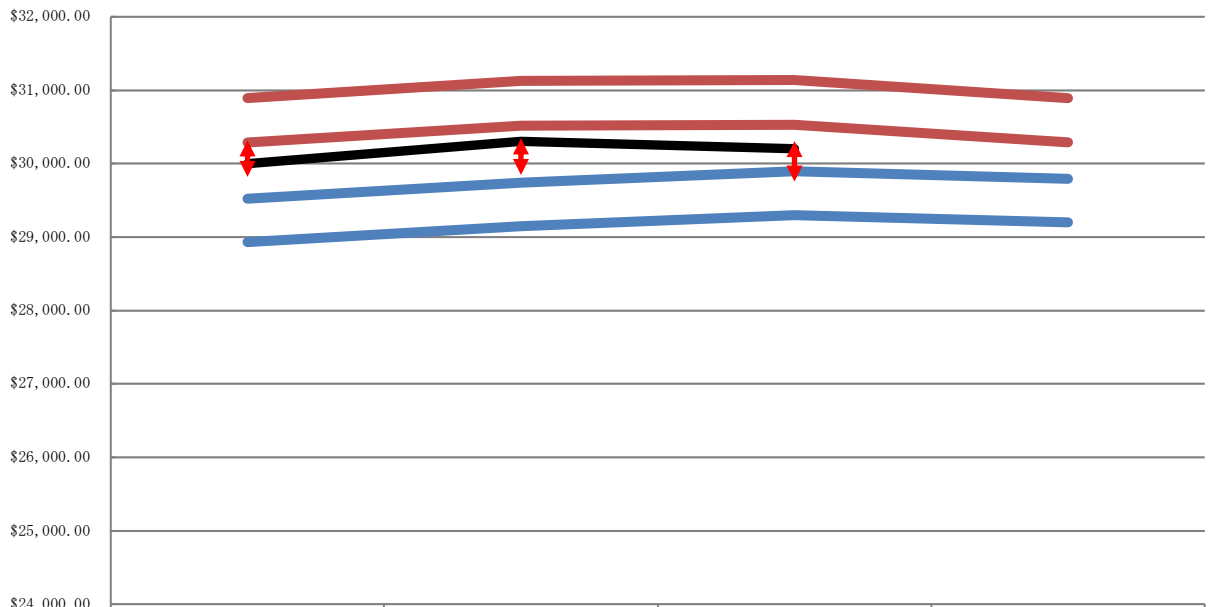
下値メド 125.70 円～124.44 円 (-1%かい離)

日経平均



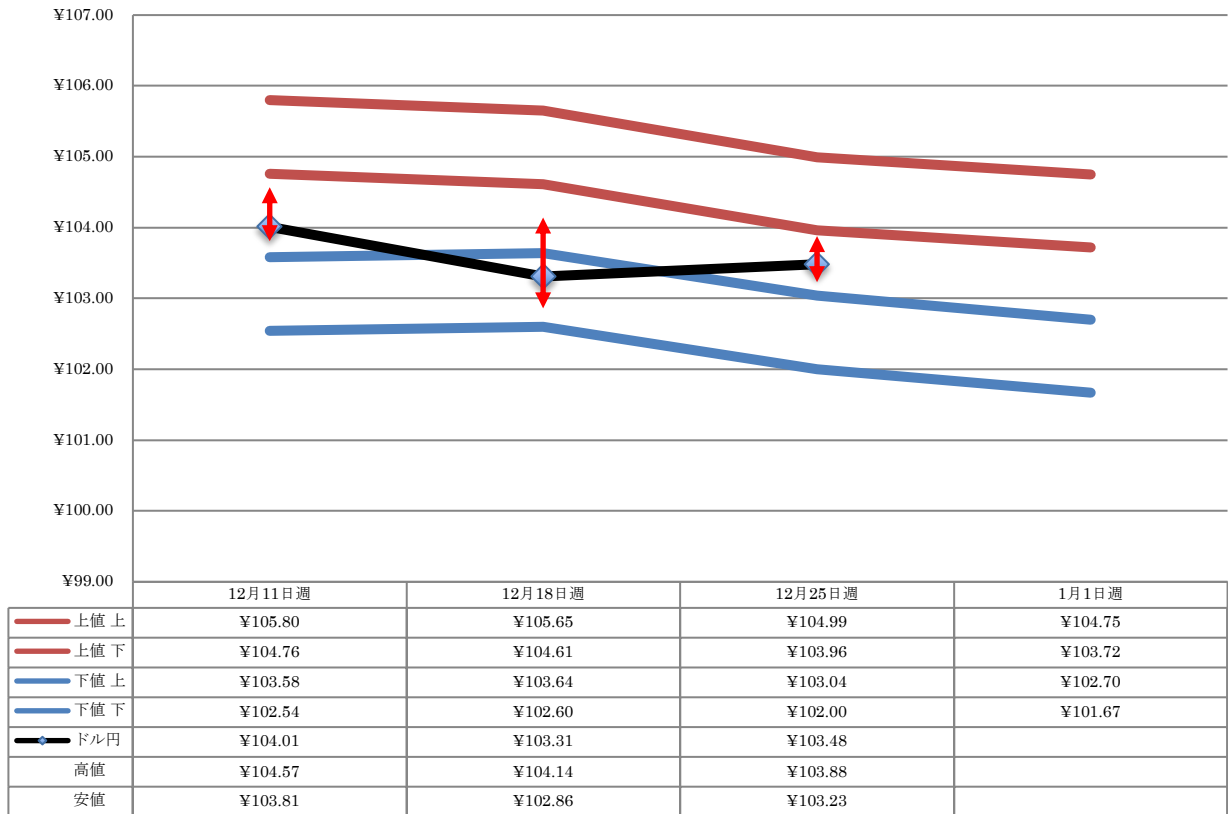
	12月11日週	12月18日週	12月25日週	1月1日週
— 日経平均	¥26,652.52	¥26,763.39	¥26,656.61	
— 高値	¥26,894.25	¥26,874.98	¥26,905.67	
— 安値	¥26,327.08	¥26,605.54	¥26,361.66	
— 上値 上	¥27,855	¥27,655	¥27,525	¥27,446
— 上値 下	¥27,309	¥27,113	¥26,986	¥26,908
— 下値 上	¥26,566	¥26,459	¥26,459	¥26,488
— 下値 下	¥26,034	¥25,929	¥25,929	¥25,958

NYダウ

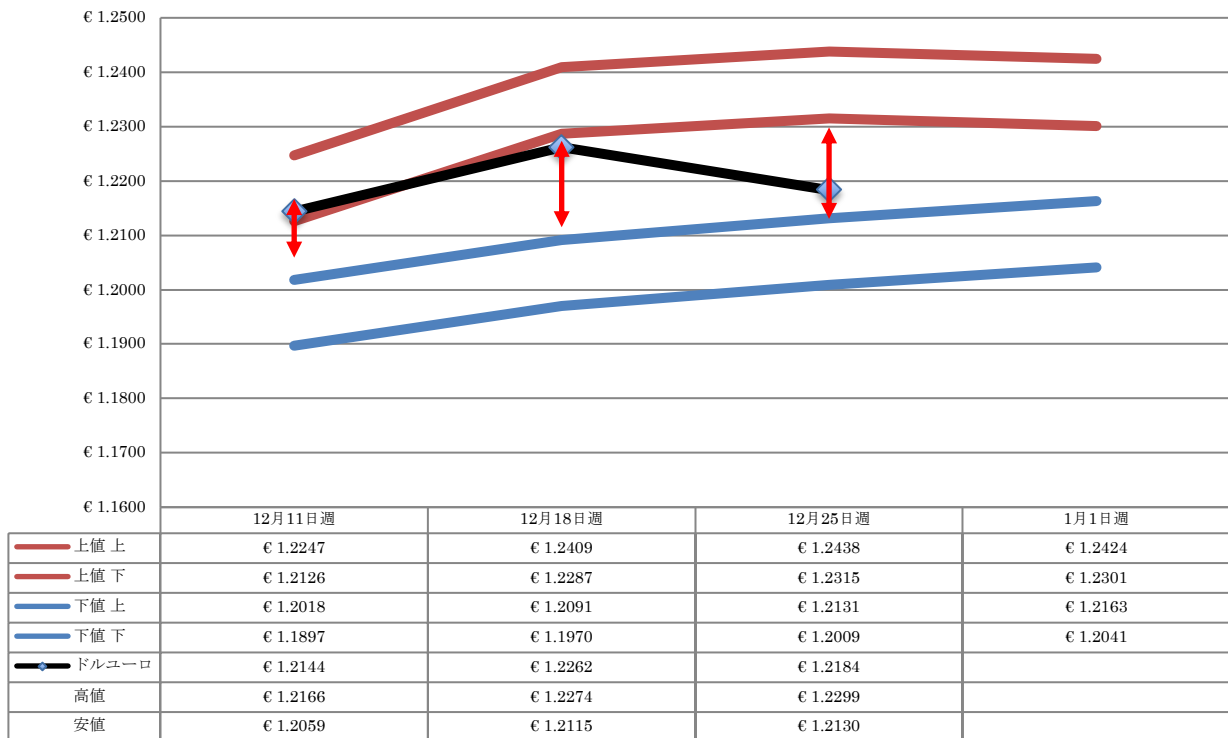


	12月11日週	12月18日週	12月25日週	1月1日週
— NYダウ	\$29,999.26	\$30,303.37	\$30,199.87	
— 上値 上	\$30,893	\$31,130	\$31,139	\$30,896
— 上値 下	\$30,288	\$30,520	\$30,529	\$30,291
— 下値 上	\$29,522	\$29,741	\$29,896	\$29,795
— 下値 下	\$28,931	\$29,146	\$29,298	\$29,199
— 高値	\$30,319.70	\$30,343.59	\$30,304.14	
— 安値	\$29,820.84	\$29,849.15	\$29,755.53	

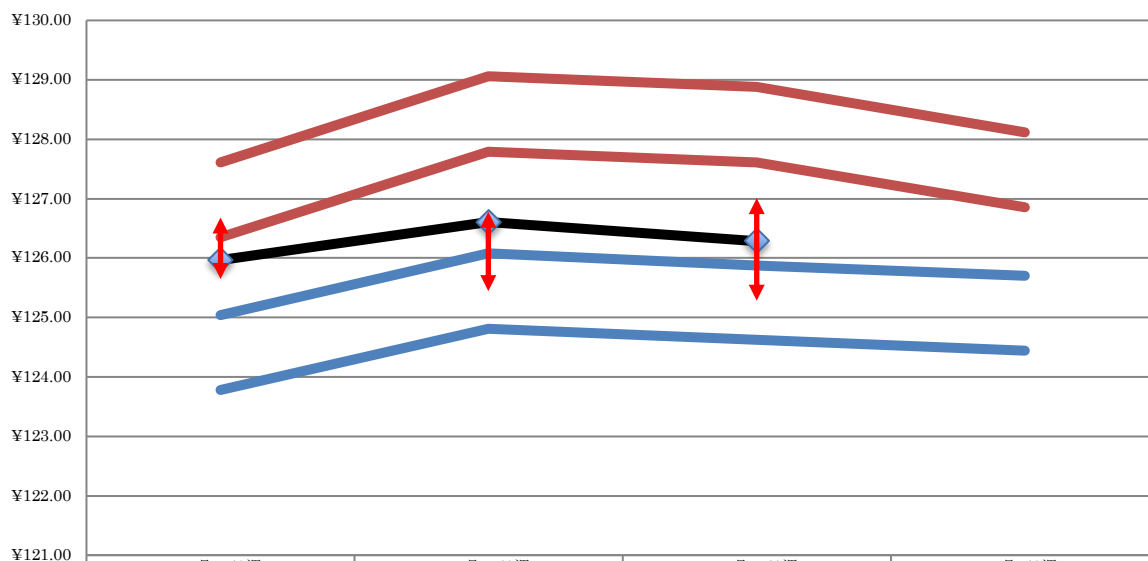
ドル円



ドルユーロ



ユーロ円

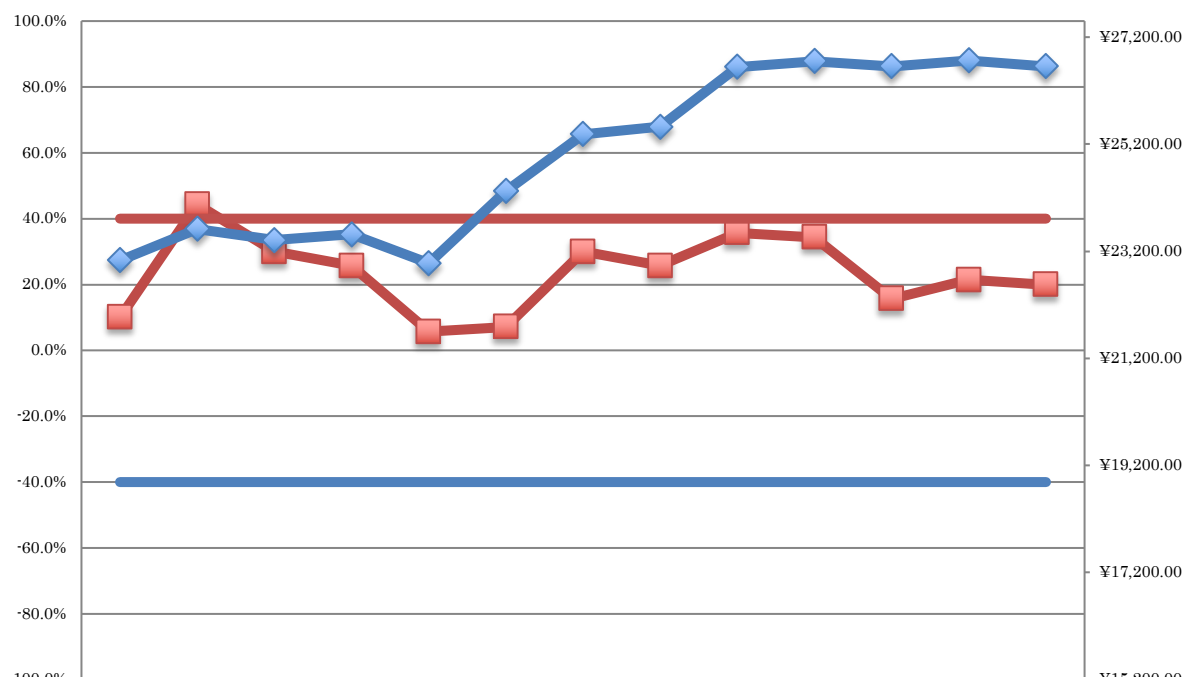


	12月11日週	12月18日週	12月25日週	1月1日週
上値上	¥127.61	¥129.06	¥128.88	¥128.12
上値下	¥126.35	¥127.79	¥127.61	¥126.86
下値上	¥125.04	¥126.08	¥125.88	¥125.70
下値下	¥123.78	¥124.81	¥124.62	¥124.44
ドルユーロ	¥125.97	¥126.61	¥126.29	
高値	¥126.69	¥126.78	¥127.01	
安値	¥125.65	¥125.45	¥125.28	

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%→12月18日週+21.4%→12月25日週+20.0%と20週連続プラス圏ですが、9月4日週、10月9日週の2度、一瞬ですが上限ゾーンを突破したものの上限ゾーンが継続するような状態とはならず足踏みが続いています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、一方では『大台替えと時間の物理学的法則』で中長期の方向感がなくなっていることから今回はどのようなかたちで目先、天井圏形成となるのかが注目されます。

日経平均とT2レーティング比率



	10月2日 週	10月9日 週	10月16日 週	10月23日 週	10月30日 週	11月6日 週	11月13日 週	11月20日 週	11月27日 週	12月4日 週	12月11日 週	12月18日 週	12月25日 週
■ 銘柄比率	10.0%	44.3%	30.0%	25.7%	5.7%	7.1%	30.0%	25.7%	35.7%	34.3%	15.7%	21.4%	20.0%
— 上限	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%
— 下限	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%
◆ 日経平均	¥23,029.9	¥23,619.6	¥23,410.6	¥23,516.5	¥22,977.1	¥24,325.2	¥25,385.8	¥25,527.3	¥26,644.7	¥26,751.2	¥26,652.5	¥26,763.3	¥26,656.6

□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。